2019年度休眠預金活用事業 事後報告書

提出日：２０２３年3月8日

１．基本情報

〈実 行 団 体〉　特定非営利活動法人 Gland・Riche
〈事　業　名〉　地域巻き込み型共生社会の実現！
〈資金分配団体〉　公益財団法人長野県みらい基金
〈事　業　名〉　地域支援と地域資源連携事業
〈事業の種類〉　草の根活動支援事業
〈実 施 期 間〉　2020年4月1日～2023年3月31日
〈事業対象地域〉　安曇野市、北安曇郡、東筑摩郡　他

２．事業概要

〈社会課題〉

１．不登校児童から青年、高齢者まで、地域にひきこもり人口の割合が増加している中、一方では企業の人財不足、農業経営者の人手不足等の課題が重積している。

２．地元産業が担い手不足により荒廃しつつあり、中間産地では荒廃農地が増加している。行政による施策もあるが、１の課題である人々を担い手として雇用できる仕組みができたら、新たな地域巻き込み方の課題解決策ができる。この仕組みづくりをしていく必要がある。

〈直接的対象グループ〉

◇困難を抱えた子ども若者及びその家族、高齢者、担い手の居ない農家

〈中長期アウトカム〉

◇安曇野市及び周辺市町村において、困難を抱えた子ども若者及びその家族、高齢者（以後対象者）が、ワサビ田を守り育てる事業と生薬栽培によ

る中山間地の荒廃農地活用に参加することで、対象者が社会参加の機会と収入を得る就労につくことができ、農業従事者の担い手不足、荒廃農地問題も解消された地域・社会になる。同時に地域全体の事業という意識付けにより、困難を抱えた子ども若者、生活困窮者、高齢者等の存在や課題解決を、自分事に思って貰う機会（場所）が生まれる。

〈アウトプットに対する活動〉

［アウトプット１］

1‐1‐1. 交通の便の良い場所への安心安全な居場所の設置（明科の拡充）☞　2020 年 9 月までに決定、運営開始

1‐1‐2. 活動周知のための広報・活動内容を対象者と一緒に考えていく勉強会の開催　☞　2020 年 4 月から 7 月

1‐2‐1. 他相談機関や農家、企業と連携した出口のある相談受付体制をつくる　☞　2020 年 4 月から随時

1‐2‐2. 従事者にしっかりとしたアセスメント力をつけるための育成を行う　☞　2020 年 4 月から随時

1‐3・4‐1. アウトリーチ従事者の育成を行う　☞　2020 年 4 月から随時

1‐3・4‐2. 行政や教育委員会と連携した対象者の発掘　☞　2020 年 4 月から随時

1‐1‐1‐①. 定着してきた居場所である作業所を、コロナ対策として密を防ぐため、透明ビニールシートで遮断する　☞　コロナ緊急対策

1‐1‐1‐②. 1ヵ所で行っていたワサビ畑での作業を、コロナ対策として 2ヵ所に分散させて行う　☞　コロナ緊急対策

［アウトプット２］

2‐1‐1. アセスメントによる対象者の正確な適正把握　☞　4 月から随時

2‐1‐2. 他相談機関や農家、企業と連携した、作業マッチング　☞　4 月から随時

2‐1‐3. 対象者や作業受け入れ側双方に対してアンケートを行い、適正に合っているか定期的にモニタリングを実施する ☞ 2020 年 4 月から随時

［アウトプット３］

3‐1‐1. 対象者に対して地元産業の現状と生産を守る必要性を伝えるための勉強会の開催（福祉事業所への説明（文書及び説明会）
☞　2020 年 4 月から随時

3‐1‐2. 受け入れ農家、企業側への対象者を受け入れる意義を伝えるための勉強会の開催（意識調査アンケートの実施）☞　2020 年 4 月から随時

3‐2‐1. 対象者の仕事へのモチベーションアップのための勉強会の開催　☞　2020 年 4 月から随時

3‐2‐2. 対象者に対する継続した就労の維持のための課題把握のためのアンケート調査　☞　2020 年 9 月から

3‐2‐3. 継続した就労を維持するための作業場や作業用品の購入　☞　2020 年 4 月から

［アウトプット４（生薬)］

４‐１‐1．行政、農業推進員、各地区での説明会の開催や協議を重ねる　☞　2020 年４月から随時

４‐１‐2．試験栽培地の確保　☞　2020 年４月から随時

４‐１‐3．対象者の作業へのマッチングと作業を教える勉強会開催（福祉事業所への説明（文書及び説明会）　☞　2020 年４月から随時

４‐２‐1．新しい事業を開催するにあたり市民に対して広報活動を行う（問い合わせ受付やアンケート調査も行う）　☞　2020 年４月から随時

４‐２‐2．試験栽培者へのアンケート調査　☞　2020 年９月から

４‐１‐1～４‐２‐2-①．新型コロナウイルスにより４月初旬に行う予定であった生薬の播種と苗定植ができなくなったことにより、別に行った作業をコロナ対策として２ヵ所に分散させて行う。　☞　コロナ緊急対策

４‐３‐1．生薬栽培地の見学会開催　☞　2021 年９月から

４‐３‐2．生薬の花摘みイベントの開催（参加者アンケート実施）　☞　2021 年９月から

４‐３‐1～４‐３‐２‐①．2020 年度に生薬の播種・苗定植ができなかったことから、生薬栽培地の見学や花摘みイベントは、先延ばしで行う。
☞　コロナ緊急対策

［アウトプット５］

５‐１・２‐１．行政広報やメディア広報協力要請　☞　2021 年４月から

５‐１・２‐2．地元や県外からの見学者の受け入れと見学者に感想等のアンケート調査　☞　2021 年９月から

〈出口戦略〉

◇安曇野市及び周辺地域において、ひきこもりや不登校状態の人が社会参加できる状態になる。

◇アウトリーチにより、引きこもり状態を脱した人に対し、居場所の提供や就労場所の確保を行う。

◇こうした若者たちの力を集めて、後継者不足に悩む地元農家の手助けを行う。また地場産業を理解してもらい、モチベーションのアップや自分たちが地域社会を担っているという意識を持ってもらう。

◇ワサビに限らず地元特産の農業の後押しや、新たな農家収入減となる可能性のある生薬の栽培も同時に行う。

３．事後評価実施概要

〈実施概要〉

［短期アウトカムの「定量的」な評価］

◇実数等の調査・把握方法　☞　聞き取り調査によりまとめを行う。

◇主な調査対象者と調査項目　☞　対象農家、企業、無業の若者

◇調査実施時期　☞　2023 年 1 月

◇調査結果の分析方法　☞　目標値××に対し××となった

◇アンケートに対する回答結果など　☞　ニーズの把握や、具体的な方法など、定量的なまとめを行う。

［短期アウトカムの「定性的」な評価］

◇アンケートやヒヤリング調査　☞　農家の需要を工程ごとに分け、季節や他農業との兼ね合いなどを細かく分析し、人員の配置や、事業計画に反映する。

◇主な調査対象者ヒヤリング項目や対象者などの変化を把握した方法など　☞　働き手の希望時間や、作業内容などを調べ、農家とのマッチングを図る。

◇調査実施時期　☞　2023 年 2 月

◇調査結果の分析方法（ヒヤリング結果や対象者の変化などをどのように分析したかなど）　☞　それぞれの対象者にあった働くスタイルを作っていく。

〈評価実施体制〉

◇聞き取り調査　☞　氏名：長坂智恵子が聞き取り（非公開）

4．事業の実績

4 - 1．インプット

［主に活動をしていたメンバーの人数や役割］

◇内部：合計 4 人（担当者 1 人、農業指導 3 人）　外部：合計 1 人

◇主な資材・機材：軽トラック、トイレ、ビニールハウス、冷蔵庫、潅水ポンプ

［経費実績］

◇契約当初の助成金計画金額：11,032,646 円　　実際に投入した助成金金額：11,032,646 円

［自己資金］

◇契約当初の自己資金計画金額：4,840,000 円　　実際に投入した自己資金の金額と種類：1,230,885 円

◇自己資金の種類：わさびなど農産品の販売収入

［資金調達で工夫した点］

◇販売収入として見込んでいたわさびの売り上げが、コロナの影響で大幅に減少し、ほかの農作物生産販売に拡大した。しかし、当初予定の収入には及ばず、資金計画変更で許される範囲で自己資金を減額した。

４‐２．アウトプットの実績

アウトプット	指標	初期値/ 初期状態	目標値/ 目標状態	事業計画に記載した達成時期	実績値
１‐１．ひきこもりや不登校、孤立した高齢者がより気軽に社会参加できる場所に生まれ変わる。	①交通の便、利用しやすい居場所環境（定性・聞き取り調査） ②利用者満足度（定性・聞き取り調査）	２ヵ所（明科中川手・穂高ワサビ田近く）定着居場所利用者：明科８名、穂高２名	初期値からの向上。場所は２か所のまま、トイレや暖房等の設備を整え、より自由に行きやすい場とする。利用者日々10 名以上。平日の毎日自由来訪型	2021 年３月	安曇野市近隣の引きこもり状態からの参加者は 4 人一回のみの参加者６人。 就労場所が 3 か所に増え、ほかにもてつだってほしいという農家が数件ある。 参加者の中から福祉就労につながった方３名
１‐２．個々のニーズを把握し、就労の場への繋ぎや、居場所での居心地の良いサービ	①相談・対応件数（定量・件数） ②相談・対応内容（定性・アン	新たな相談受付から社会参加、就労までの	農業と貧困家庭､ひきこもり、高齢者、障がい	2021 年３月	農作業を通し作業の連携が図れるようになった。家庭に問題のある

スを提供できる。必要に応じて他機関に繋げることができるようになる。	ケート） ③繋ぎ場所（定量・推移） ④繋いだ後の状況（定性・アンケート）	支援体制を作る	者等の連携の仕方のシステム化		子どもは市町村の家庭支援課福祉課、と連携が持て、社会福祉協議会の日常生活支援事業や市、県の生活保護申請につなぐことができた。
１‐３．対象者へのアクセスとしてアウトリーチを更に多く行うことができるようになる。	①アウトリーチ件数（定量・実数把握） ②対象者が居場所につながった件数(定量・実数)	アウトリーチによる担当件数現在約 80 名中信地区の推定引きこもり者数 6,000 人	初期値からの向上	2021 年 3 月	新規対応は数が多すぎて対応できていない。参加してくれている人を大事に支援していく。
１‐4．アウトリーチ行うことができる技術職がふえ引きこもり状態の人の減少につながる。	①講習会の開催回数と支援者の数（定量・講演会と支援者の実数） ②各支援者が持っている支援者数（定量）	要支援者は多いがどう支援してよいかわからないという支援者に対する支援	具体的な支援方法の講習	2021 年 3 月	3 回ほど開催したのち、再びコロナウイルスが流行し止まっている。新規職員を採用し個別に引継を行っている。
２‐１．安心安全に過ごせる場所で作業内容と作業工程を明確にする、個性や特性に合った就労システムが生まれる。	①対象者のニーズ（定性・アンケート） ②対象者に合った作業とのマッチング数(定量) ③モニタリングの回数(定量)	今後構築していく	新たなアセスメントとマッチング支援体制づくり	2021 年 3 月	活動主体が農業なので、活動に沿った参加者が主体になっている。アセスメントで農業以外の要望があって

					も対応できないでいる。 農業に関しては、時間、日数等柔軟に対応できている。
３‐１．地域の産業に携わることで雇用の機会、新たな地域の担い手を創出し、事業（農業連携）の継続力をつける。	①雇用需要数(定量・雇用数) ②事業継続力・増加量(定量・実数)	2 ヵ所：明科居場所利用者 5 名、作業従事者 3 名、穂高作業従事者２名　作業は時給８５０円でお支払いしている	初期値からの向上　場所は２か所のまま、作業工程別従事者の把握→見直し→向上(繰り返し)のシステム化を行う。就労者日々5 名以上	2021 年 3 月	協力農家と連携し日々の作業が計画的にできている。事業も拡大していっている。 主事業であるワサビはコロナ渦で飲食店への売り上げが激減した。 陸ワサビはようやくハウスが完成し栽培が始まった。管理に追われている。
３‐２．就労に携わる対象者が、自信と誇りを持って地元産業を守り育てていく機会が生まれる。	①対象者の意識変化（定性・聞き取り）	対象者と農家への意識向上のための説明会開催準備	2020 年 4 月から 7 月。地域づくり課協力のもと各地区にて説明会等開催	2021 年 3 月	作業を通して地域の農家や他従業員、ボランティアとかかわることにより、社会性を持つことができ、自分の生きている場所を確認していくことができるようになった。

４‐１．地域全体で一つの新しい生薬栽培プロジェクトが生まれる。	①実施農地個所数（定量・実数） ②試験栽培参加農家数（実数把握） ③関わる生活困窮者、ひきこもり、高齢者、障がい者人数（定量・実数）	過去三年間の試験栽培データあり。　安曇野市内二カ所、大町一か所の畑で試験栽培済み	試験栽培地５カ所、携わる困窮者ひきこもり、高齢者、障がい者等１か所につき２名以上	2021 年３月	2021 年３月時点で苗の購入資金が足りず翌年に持ち越し 継続中のシャクヤクは順調 当面はシャクヤクの株分けをしながら耕作免訴気を広げていきたい。 当帰の種をまいたが手が回っていない。
４‐2．地域に新たな生薬栽培プロジェクトが生まれたことで、荒廃地が減る。	①荒廃地の減少面積（定量）	行政と話し合い中	安曇野市、安曇野市周辺地域住民の参加協力者が増える。	2021 年３月	当初は行政から何人か農地委員を紹介してもらったが、あまり乗り気ではなくとん挫中 その後、生薬用の畑を借りたり、玉ねぎ畑での作業で荒廃地を減らすことができた。
４‐３．生薬の花を見たり花をかざしたりなどで、新たな観光が生まれる。	①観光客数の推移（定量・実数） ②観光客の感想（定性・アンケート）	生薬の花などを目当てにした観光客はなし	芍薬の咲くころに花摘み体験等のイベントの実施が定着する。 芍薬の花を小中学校へプレゼン	2021 年３月	コロナにより観光客はほとんどいない。 地元住民には花を楽しんでもらえた。

			トするなど。		
５‐１．地域全体の事業という意識付けと、関わる障害者、ひきこもり、生活困窮者、高齢者等の存在や課題解決を、自分事に思って貰う機会（場所）が生まれる。	①関係者の意識変化（定性・アンケート） ②他県や他の地域、地元住民を対象とした見学会の回数（定量・実数）	見学会はゼロ回	見学者の随時受け入れ	2021 年 3 月	農業は農繁期になると作業に追われ付随する事業ができないでいる。農閑期は、見学希望はない。
５‐２．行政広報やメディアの協力、事業の取り組みを広く周知したことで、地域の事業だとの意識付けが生まれる。	①地域住民の意識変化（定性・アンケート）	住民の意識は図れていない	地域の事業という住民意識の定着	2021 年 3 月	生薬栽培の規模が小さく注目度はない。

４‐３．外部との連携の実績

［行政・企業・NPO などとの連携や対話について、どの程度実施し、どのような工夫をしたのか、など］

◇当事者の持っている「生きづらさ」に直接向き合って、医療につなげたり学校との間に介入したり、また、時間に余裕があるときは就労の体験をしてみたり、一つの事柄を解決するのではなく、当事者の生活レベル全体を底上げしていくような支援を行うことができている。

◇連携先としては、医療機関、障碍者総合支援センター、社会福祉協議会、市町村。

◇安曇野市農地課：休耕地や、農業委員とのマッチングを図ってもらった。

◇株式会社マルイ：陸ワサビの栽培をゼロから指導していただいた。

［市民参加について、合意形成のプロセスはどのように実施したのか、など］

◇引きこもり状態の若者だけでなく、その家族の協力も得て一緒に農業を行くことにより、安心感のある作業場所が提供できた。

◇提携農家の理解・協力で、各利用者の体調や起きた時間で働くことができる（ワークシェア的な働きができる環境づくり）ので大変好評。利用者の持続性も高まった。

［包括的な連携など、事業組成を実施した場合、その仕組み作りに際してどのような工夫をしたのか］

◇引きこもり支援は本事業の一部であったが、２０２２年度から安曇野市の委託事業として別事業化された。協力農家と連携し日々の作業が計画的にでき、農作業を通し作業の連携が図れるようになった。事業も拡大している。

５．事業の実績

５－１．短期アウトカムの達成度

①短期アウトカム	②指標	③初期値/初期状態	④目標値/目標状態	⑤達成時期	アウトカムの発現状況（実績）
１．ひきこもり状態等の子ども・若者などに対して訪問支援（アウトリーチ）できる人が増えたことで、安曇野市及び周辺地域において、ひきこもりや不登校、孤立した高齢者が社会参加できる状態になる。	①年齢や障がい別居場所来所人数（実数把握） ①-2 支援者から支援方法についてのノウハウについての質問が多くあった。 ②対象者に対して居場所の満足度（アンケート） ③居場所支援従事者からの気付きの聞き取り	２か所(明科中川手・穂高ワサビ田近く）定着居場所利用者：明科８名、穂高２名 事前調査により、市町村である程度の引きこもりの人数は把握できているが、どう対応してよいのかがわからないという意見が多く出た。	初期値からの向上　場所は２か所のまま、トイレや暖房等の設備を整え、より自由に行きやすい場とする。利用者日々１０名以上。 講習会を行い、アウトリーチができる人を 10 人程度増やす。 保健師、スクールソーシャルワーカー、民生委員	2023/2/28	相談件数　延べ 150 件 相談内容は、引きこもりの解消、生活悩み相談、就労支援、子育て、介護相談。 引きこもり支援の要望は多い。アウトリーチは月平均で、新規 10 件、常時継続 10 件ある。アウトリーチに関しては、失敗が許されず、資質を持った支援員の育成が課題であることが明確になった。 アウトリーチ要員の育成は、コロナウイルスの流行により、人を集めることが難しく、達

					成できていない。 作業場所や畑の拡充は達成した。 本事業終了後、行政と協力して進めていく。
２．現在無業の若者や困窮世帯、高齢者に就労の機会が増加する。	①作業内容と作業工程の視覚化（わかりやすさのアンケートート） ②年齢層障がい別等の新規就労者数と定着就労者数（実数把握） ③対象者の作業工賃の推移の把握	２か所：明科居場所利用者５名、作業従事者３名、穂高作業従事者２名　作業は時給８５０円でお支払いしている	初期値からの向上　場所は２か所のまま、作業工程別従事者の把握→見直し→向上（繰り返し）のシステム化を行う。就労者日々５名以上	2023/2/28	ワサビの農場を２か所確保し。両農場とも作業所及びトイレがついている。陸ワサビの栽培もおおむね順調だが、生薬栽培は手が足りずに広げられないでいる。 現在８名の若者が作業を継続している。それぞれの対象者にあった働き方のシステムができた。
３．２の就労内容を、地元産業を守り育てる事業（ワサビ田を守り育てる事業）に繋げることで、対象者のモチベーションアップと向上に繋げ、永続的な担い手を創出する。	'①年齢別所外別等の新規来場人数と定着人数の把握 ②対象者に対して働きやすさについてのアンケート ④売上高の推移把握	より良い作業システムを作りもっと多くの方に参加してもらえるよう日々模索している	初期値からの向上　２から更に永続的な従事者が生まれる。又は農家に直接雇用される人材が出る。軽トラッ	2023/2/28	長期にわたる定着は未だ職員の介入が必要。 陸ワサビの栽培が始まったことで永続的に働ける場所の確保ができた。 作業を通して地域の農

			クや冷蔵庫の購入、ハウス設置で効率化と安定収入が見込まれる		家や他従業員、ボランティアとかかわることにより、社会性を持つことができ、自分の生きている場所を確認していくことができるようになった。また、陸ワサビ加工事業や農作業により自信がつき、対象者のモチベーションアップと向上に繋げ、永続的な担い手を創出することへの達成度は高い。
４．市内の結束力が強化され、荒廃地の解消と新たな仕事や地域の魅力が生まれ、地域が活性化する。	'①農政課と協議の上試験栽培地を決定する ②安曇野市内各所で試験栽培を開始し、栽培に適した場所や管理の仕方の勉強会を開く。（試験栽培者のアンケート実施） ③担い手の派遣。就労数の把握	過去三年間の試験栽培データあり。　安曇野市内二カ所、大町一か所の畑で試験栽培済み	初期値からの向上　安曇野市内各地区での農業推進員との連携による試験栽培開始と人材を含めた定着。	2023/2/28	生薬栽培に関し、農政課の紹介によるアプローチを行ったが、あまり興味を示す農家はいなかった。今後自分たちで実績を上げ再度挑戦してみたい。

５．地域内で支援者、協力者が増え、地域巻き込み型共生社会へ変化していく。他県等からの見学者が増える。	'①2020 年 4 月から周知活動を行う。（地域づくり課協力・農政課協力） ②問い合わせ専門窓口を設置し、件数や内容の把握 ③見学者や観光客が増える	地域づくり課、農政課、ワサビ組合長、信濃毎日新聞社へ協力要請済み。	各地区長への説明会等を開始し、広く地域の賛同を得て行う事業になる。	2023/2/28	地域の皆様の理解を得て陸ワサビハウスの近くに廃止されたＪＡ支所の施設を借りることができ、地域住民の皆様の方が障害者、ひきこもりなどの存在や課題解決を自分事に思って貰う機会となっている。 生薬の観光は、人を集めることが困難で、進展はなかった。

５ - ２波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

［想定外だった事項や、波及的・副次的効果はどうだったか］

◇コロナ渦により、ワサビの売り上げが例年の１０％にも満たない状況下で、玉ねぎの栽培に手を貸してほしいという依頼があり、畑の世話や収穫など何とか仕事を確保することができた。

５ - ３事業の効率化

インプット　（投入されたヒト・モノ・カネ）が、対象とする受益者や地域の環境整備に資するために使われたか	
☑ 確実に使われた ☐ 概ね使われた ☐ 課題が残った	選択した理由 冷蔵庫の導入により収穫の曜日に縛られず作業ができるようになった。 ビニールハウスで陸ワサビの栽培を始めたことにより当帰の仕事の確保ができた。
インプットが、社会課題の解決に結びつくアウトプット・アウトカムの発現に使われたか	

☑ 確実に使われた ☐ 概ね使われた ☐ 課題が残った	選択した理由 無業の若者の居場所や働く場所を作ることができた。
経費の妥当性（社会通念上妥当な経費であり、特に単価が高額な場合は、同等のものと比較して妥当な範囲であったか）	
☑ 十分妥当な範囲だった ☐ ほぼ妥当な範囲だった ☐ 課題が残った	選択した理由 資金計画も含め、ほぼ資金計画通りの予算執行ができた
当初計画に沿って、自己資金、民間資金を適切に確保することが出来たか。※自己資金の一環として受益者に一定の自己負担を徴収する場合には、受益者負担額が通常の価格水準に比べて適切な水準に設定されていたかどうかもあわせて検証してください。	
☐ 適切に確保できた ☑ ほぼ適切に確保できた ☐ 課題が残った	選択した理由 想定していた売り上げがほとんどなく、事業費に頼りきりだった。

6．成功要因

［事業で達成した成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについてその要因や課題は何だったか。］

◇ひきこもり状態の若者の自宅へ行き、何度か訪問を重ねながら信頼関係を築き、一緒に畑に散歩に行く。一緒にカフェへ行き、気分転換をしながら今後の生き方をゆっくりと語ることがでてきるなど、畑仕事に直結する以前の状態変化がみられるケースが複数できた。

◇自宅訪問から進展して畑作業に繋がったケースがあり、若者を支えてきた老親が子供と一緒に作業に来る等、家族間に良い風が吹き、一家全体が救われたケースがある。

◇ワサビ田に入り、農業体験をすることで、観光客などに関心を持たれたり、高齢化した農家さんから感謝の言葉を聞いたりすることが意欲に繋がり、毎日継続した作業に参加する若者が 2020 年度末には 4 名になった。

◇無業の若者の居場所と働く場所、また働き方を工夫していくシステムのきっかけを作ることができた。

◇アウトリーチ要員の育成は興味のある人は大勢いるが、実際に人を集めることができずにできなかった。

７．その他深掘り検証項目（任意記載）

[団体が重要・有益だと思うことを、より深掘りして検証を行った事項があれば 、その内容を記載してください]

◇農作業に参加し、課参加者や職員、農家のパート職員とかかわることにより社会性が身につき、自分の生きているポジションがつかめ、引きこもりから脱却することができた。地域社会の連携が少し持てるようになった。

◇一つ一つの困りごとに個々に対応するのではなく、環境や人間関係にも踏み込み全体としての課題解決に向けている。

◇新しい協力農家との連携・理解により、好きな日の好きな時間に農園に出向き、できるだけの作業を行い、実際に働いた状況を、農家の用意したカレンダーに書き込むことで給料計算をしてくれ時給が支払われるという、新しい仕事の仕方（ワークシェア的な働きができる環境づくり）・仕組みが構築された。それにより、利用者が持続的に働くことが出来るようになった。

◇自由な働き方の構築で、各自の都合の良い時間帯でと長さを選択して、働くことができるシステムの導入部分を作ることができた

◇課題としては、仕事のモチベーションや意義を各自に認識してもらい、集中して作業ができる環境を作ることが重要である。

８．結論

◇居場所は２か所のまま、トイレや暖房等の設備を整え、より自由に行きやすい場とする。利用者日々１０名以上。平日の毎日自由来訪型。アウトカムの達成度は高い。引きこもり支援の担当者の拡充は課題となった。

◇アウトリーチを必要としている人に対する支援者の割合はかなりの差がある。支援員が足りておらず増強が急務。

◇農業と貧困家庭、ひきこもり、高齢者、障がい者等の就労は、達成度が高いが、連携の仕方のシステム化は必要。

◇陸ワサビ加工事業や農作業により自信がつき、対象者のモチベーションアップと向上につなげ、永続的な担い手を創出することへの達成度は高い。

◇地域巻き込み型共生社会への道筋や、ラ・テールとして収益性のある事業の継続に進むことはできた。協力者の増加は今後の課題となった。

８‐１．事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス			○		

（2）事業成果の達成度			○		

8 - 2．事業実施の妥当性

◇コロナウイルスの影響を受けたこと以外はほぼ目標に沿った事業が展開できた。予定した事業の代替事業も地元農家の協力で確保することができた。

◇株式会社マルイ、株式会社十一屋、金子農園、黒岩ワサビ園、小林農園、丸山ワサビ園など、多くの地元企業農家とつながりができ、これからも途切れずに共同していく素養ができた。

◇引きこもり支援事業は本事業から独立し、行政と協力し、新たな拠点を作りながら進んでいくことになった。

◇農業担当チームも徐々に拡充し、2022 年の秋からは JA あづみの北穂高支所の廃業による建物を借りることができ、地域住民の皆様の方が障害者、ひきこもりなどの存在や課題解決を自分事に思って貰う機会となっている。ここを新たな拠点として、農業基地ばかりでなく、情報発信の場としても活用していきたい。

9．提言

［評価結果に基づき事業を継続していく上で、 役立つ提案・助言を記載してください 。本事業をどのように持続・発展させるか、休眠預金に依存せずに自走化させる戦略とその実施状況等を記載してください］

◇本事業により、農家や企業の需要を掘り起こし、それと無業の若者ネットワークを構築することにより需要と供給のマッチングを図り、一丸となって事業を継続させていく目途がついた。

10. 知見・教訓

［事業の経験や学びから 類似課題への取組みに参考とできる具体的な教訓を記載してください］

◇引きこもり支援や、無業の若者の発掘など、他㎜当社によるところが大きく、できる人も限られているので、人材の確保が大切である。

◇農業が中心の事業であるが、職員も未経験者が多く、何をどこに聞いて良いかすらわからない状況が多々あった。

◇長野県みらい基金の担当していただいた、小林所長には、農業の実質的なアドバイスや指導をいただき大変助かった。こうした農業エキスパート

の導入も必死レアルと考える。

11. 資料（別添）

以下のような事業の成果を伝える補強となる資料を別添でご提出ください。
➢ 事前評価報告後に見直した事業計画やロジックモデル ➢ 事後評価報告時の事業計画やロジックモデル ➢ 事業の様子がわかる写真資料 ※公開可能な写真を貼付してください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください ➢ 広報活動の成果品、報道された記事 ➢ アンケート調査結果 や実際に使用した調査票 ➢ とりまとめられた白書 ➢ 論文、学会 発表 資料 ➢ 特許など ※過去に提出したものは再提出していただく必要はありません。

特定非営利活動法人　Gland・Riche

地域巻き込み型共生社会の実現

【中長期アウトカム】安曇野市及び周辺市町村において、困難を抱えた子ども若者及びその家族、高齢者（以後対象者）が、ワサビ田を守り育てる事業と生業栽培による中山間地の荒廃農地活用に参加することで、対象者が社会参加の機会と収入を得る就労につくことができ、同時に農業従事者の担い手不足、荒廃農地問題も解消された地域・社会になる。

Outcome 01

ひきこもり状態等の子ども・若者などに対して訪問支援（アウトリーチ）できる人が増えたことで、安曇野市及び周辺地域において、引きこもり状態の人が減少し、ひきこもりや不登校、孤立した高齢者が社会参加できる状態になる。

Outcome 02

現在無業の若者や困窮世帯、高齢者に就労の機会が増加する。

Outcome 03

２の就労内容を、地元産業を守り育てる事業（ワサビ田を守り育てる事業）に繋げることで、対象者のモチベーションアップと向上に繋げ、永続的な担い手を創出する

Outcome 04

地域内で支援者、協力者が増え、地域巻き込み型共生社会へ変化していく。他県等からの見学者が増える

2020/4

新型コロナウィルスの影響

- アウトリーチができる人の養成がコロナの影響で進まない
- コロナ対策もあり明科の居場所の拡充
- 小林農園と連携し玉ねぎの栽培を行った
- コロナ渦によりワサビの売り上げがなくなった
- 作業所キャパの問題もあり新規の受け入れを断わるケースもあった
- コロナにより作業所を小分けにし経費が増加
- コロナの影響による資材不足により、陸ワサビのビニールハウスの完成が大幅に遅れる

ワサビ十一屋連携　陸ワサビを専属するマルイとの連携

2020/10

安曇野・東筑の社協 安曇野 東京の子育て支援機関

- ひきこもり状態の若者の自宅へ行き、何度か訪問を重ねながら信頼関係を築き、一緒に畑に散歩に行く。一緒にカフェへ行き、気分転換をしながら今後の生き方をゆっくりと話ることができてきなど、畑仕事に直結する以前の状態変化がみられるケースが複数できた。
- 40代までひきこもり状態であった子供さんが就労をはじめたことに感化され、家族に明るい会話が生まれ、「自分たちも協力したい」と、親ごさんのボランティア参加者が２名という予定外の良い社会効果が生まれる。農業に携わることで地元農家の方々とお茶を飲んだり、余剰活動として焼き肉会を野外で行うなど、人間の温かみを感じることのできる活動が広がった。
- ワサビ田に入り、農業体験をすることで、観光客などに関心を持たれたり、高齢化した農家さんから感謝の言葉を聞いたりすることが意欲に繋がり、毎日継続した作業に参加する若者が４名になった。

子供若者支援事業として安曇野市からの委託を受ける。行政、障害者総合支援センター等からひきこもり相談事業を委託されるなど地域からも期待される。

玉ねぎ、小林農園との連携

コロナで菜草園ができなかったこともあり見学者は来ない

2021/4

新型コロナウイルスの影響

- 安曇野市の広報で５名新規
- 人手不足でアセスメントは引き続き低調
- 利用者にヒアリングを行い働く時間や曜日など調査
- コロナの影響で人材育成事業ができないこともあり、新規に経験者を雇用
- キクイモの栽培と加工
- 農業収入は１５０万から２０万円に減少
- シャクヤクの畑を増やした
- 陸ワサビの代わりに玉ねぎの栽培
- ハウスの完成が遅れたため気温が低く生育が悪い

ワサビ十一屋連携　陸ワサビを専属するマルイとの連携　丸山農園　行政の子育て支援機関、安曇野市、社協

2021/10

中間評価 安曇野・東筑の社協　安曇野 東京の子育て支援機関

- 農作業に参加し、課参加者や職員、農家のパート職員とかかわることにより社会性が身につき、自分の生きているポジションがつかめ、引きこもりから脱却することができた。地域社会の連携が少し持てるようになった。
- 一つ一つの困りごとに個々に対応するのではなく、環境や人間関係にも踏み込み全体としての課題解決に向けている
- アウトリーチを必要としている人に対する支援者の割合はかなりの差がある。支援員が足りておらず増強が急務
- 就労者の収入面、生業栽培、協力者の増加は課題がある
- 新しい協力農家との連携・理解により、好きな日の好きな時間に農園に出向き、できるだけの作業を行い、実際に働いた状況を、農家の用意したカレンダーに書き込むことで給料計算をしてくれ時給が支払われるという、新しい仕事の仕方（ワークシェアリング）仕組みが構築された。それにより、利用者が持続的に働くことが出来つようになった。

2022/4

新型コロナウイルスの影響

- グランドリッシュで農業を通して引きこもり支援を行っていることが広く世間に認められ、間い合わせや体験、見学などの依頼は多い。
- 日々の農作業の忙しさに紛れて支援計画や文章へのまとめなどが遅れている。
- 働いて賃金を得るという体験は大変な自信になり、普段の生活の中でもやる気が出て安定した暮らしが送れるようになってきている。
- 不登校の子供への支援では、玉ねぎの収穫が大変忙しい時にお願いして手伝いに来てもらったことをきっかけに、学校に少し行けるようになった。
- 農作業に参加し、参加者や職員、農家のパート職員とかかわることにより社会性が身につき、自分の生きているポジションがつかめ、引きこもりから脱却することができた。地域社会の連携が少し持てるようになった。

ワサビ十一屋連携　陸ワサビを専属するマルイとの連携　丸山農園

2022/10

安曇野・東筑の社協 安曇野 東京の子育て支援機関

- 引きこもり支援の要望は多い。ただ、アウトリーチに関しては、失敗が許されず、資質を持った支援員の育成が課題。
- 相談件数　延べ130件
  相談内容　引きこもりの解消、生活悩み相談、就労支援、子育て、介護相談。
  アウトリーチは月平均で、新規10件、常時継続10件あるる。アウトリーチに関しては、失敗が許されず、資質を持った支援員の育成が課題であることが明確になった。
- ワサビの農場を２ヵ所確保し。両農場とも作業所及びトイレがついている。陸ワサビの栽培もおおむね順調だが、生業栽培は手が足りずに広げられないでいる。現在８名の若者が作業を継続している。
- 地域の皆様の理解を得て陸ワサビハウスの近くに廃止されたJA支所の施設を借りることができた。これにより地域住民の皆様の方が障害者、ひきこもりなどの存在や課題解決を自分事に思って貰う機会となっている。
- 当事者の持っている「生きづらさ」に直接向き合って、医療につなげたり学校との間に介入したり、また、時間に余裕があるときは就労の体験をしてみたり、一つの事柄を解決するのではなく、当事者の生活レベル全体を底上げしていくような支援を行っている。連携先としては、医療機関、障碍者総合支援センター、社会福祉協議会、市町村。
- 休眠事業を行ったことで、行政からGland・Richeの事業を依頼されるようになった。
- 提携農家の理解・協力で、各利用者の体調や起きた時間で働くことができる（ワークシェア的な働きができる環境づくり）ので大変好評。利用者の持続性も高まった。
- 協力農家と連携し日々の作業が計画的にでき、農作業を通し作業の連携が図れるようになった。事業も拡大している。

ワサビ十一屋連携　陸ワサビを専属するマルイとの連携　丸山農園　行政の子育て支援機関、安曇野市、社協　事後評価に向け、ミーティングを３回実施

2023/3

事後評価

- 居場所は２ヵ所のまま、トイレや暖房等の設備を整え、より自由に行きやすい場とする。利用者日々１０名以上。平日の毎日自由来訪型。アウトカムの達成度は高い。引きこもり支援の担当者の拡充は課題
- 農業と親因家庭、ひきこもり、高齢者、障がい者等の就労は、達成度が高いが、連携の仕方のシステム化は必要
- 陸ワサビ加工事業や農作業により自信がつき、対象者のモチベーションアップと向上に繋げ、永続的な担い手を創出することへの達成度は高い
- 地域巻き込み型共生社会への道筋や、ラ・テールとして収益性のある事業の継続に進むことはできた。協力者の増加は課題

随時、Gland・Richeに訪問・連絡し、事業実施や資金関係について相談ができた。コロナの影響でワサビの売り上げが落ちたり、ビニールハウスの建設が遅れるなど、当初予想しなかった事柄に対しては、新しい農作物の導入や、農地換地・肥料などの提案をすることができた。これらにより、困難を抱えた若者が多様な働き方で生きる道を見つけることができる伊庭者づくりに貢献することができた。

みらい基金・伴走支援

- 随時Gland・Richeを訪問し、状況確認・情報共有
- 評価計画策定支援
- コロナ緊急枠による資金支援
- 安曇野市子育て支援課などの行政機関や社協、関係会社への訪問
- 資金計画変更の相談
- 年度末報告年度末精算
- 随時団体訪問
- 農福連携の充実のため、わさびの他の作物導入相談
- 粘土質で水はけの悪い土壌の改善に、ホクトのキノコ廃菌床投入の提案
- 農業機械や畑への肥料、資材について提案
- 月次精算報告確認
- 中間評価レビュー
  ・利用者だけでなく、その家族や接してきた職員の変化
  ・地域からの理解や事業への巻き込みの状態
- 中間評価策定支援
- 陸ワサビ栽培ハウスの現状と課題把握
- NBS取材対応
- 年度末精算書年度末報告書策定相談
- 随時、ビニールハウスや作業場など訪問
- 農福連携の農業関係について提案
- 月 次 精算報告
- JANPIA視察受け入れ
- 2022年度進捗報告
- 資金計画変更相談
- 事後評価に向け、MTGを４回開催

Stakeholder Map

- 安曇野市・東筑摩郡の子育て支援機関
- 安曇野市や近隣市町村社協
- 栃木天海堂
- 小林農園
- 十一屋
- マルイ
- 農業生産法人百姓百笑
- 丸山農園